

朝鮮石人像を訪ねて（2）

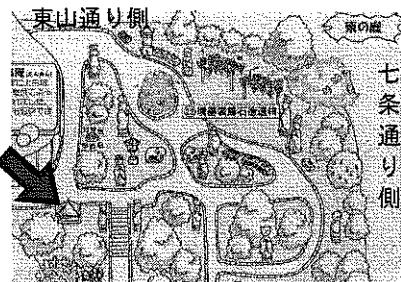
深田 晃二

★ 前号の訂正 ★

前230号で3点の誤記があったので訂正する。

1. 望柱石の亭

京都博物館の望柱石で作られた亭（ちん）について、『文化日報とTIME記事に記載があるが、今は赤煉瓦製柱で藤棚が作ってある。』と書いたが、腑



に落ちず再度確認に行つたところ、ちゃんと現存していた。案内地図の矢印がその亭である。頭部の形か

ら見て手前2本と後方の2本がそれぞれ対の様だが、リスが陽刻されているのは左奥の1本だけだ。リスは豊かな毛の尾を振りながら登っている。



2. 東京の6ヶ所

『世中両暦博物館・学術叢書1(2001. 6)に京都5ヶ所と東京の6ヶ所の案内がある』としながら、東京について5ヶ所しか書いていなかった。抜けているのは調布市深大寺元町にある「曼珠苑」であり、これを加えて6ヶ所は（根津美術館、高橋是清記念公園、祇園寺、調布市郷土博物館、曼珠苑、東京国立博物館）となる。

3. 淑容沈氏之墓

高橋是清翁記念公園の朝鮮朝第九代の王・成宗の側室に当たる女性の墓石の発見者は当時釜山日報の崔支局長で、尹達世氏は誰の墓かを特定したのだとご本人からの指摘があった。

★ 京都・円山公園長楽館 ★

京都東山の八坂神社の祇園石段下・西楼門をくぐり、そのまま東に抜けると円山公園に入る。有名

なしだれ桜を右に曲がり十数mいくと石門に重厚な鉄扉の長楽館が現れる。明治の煙草王 村井吉兵衛の別邸跡で米国人の設計により1909年竣工。ロココ様式の華麗な作りで京都市の有形文化財に指定されていて、一階のカフェに円山公園を散策する二人連れたちが気軽に立ち寄っていた。

入って左手に目に付く大きな五重石塔があり、その下奥に木に隠れる様に童子像（高さ 90cm）が一体ある。また入口右手に建物を回り込んだ所に二体の文人像（左 166cm 縦6筋、右 162cm 縦6筋）がある。女将の話によると、『昭和27年に先代（平成7年逝去）が建物を購入し、長楽館（ホテル、レストラン、カフェ）を開業した。石塔などを含めこれら石人像を市中より購入したと聞いている。ヒマラヤスギは残したが庭は大改装した』とのことである。今よりずっと背の低いヒマラヤスギが写った当時の写真と現在の写真の載ったパンフレットを戴いた。



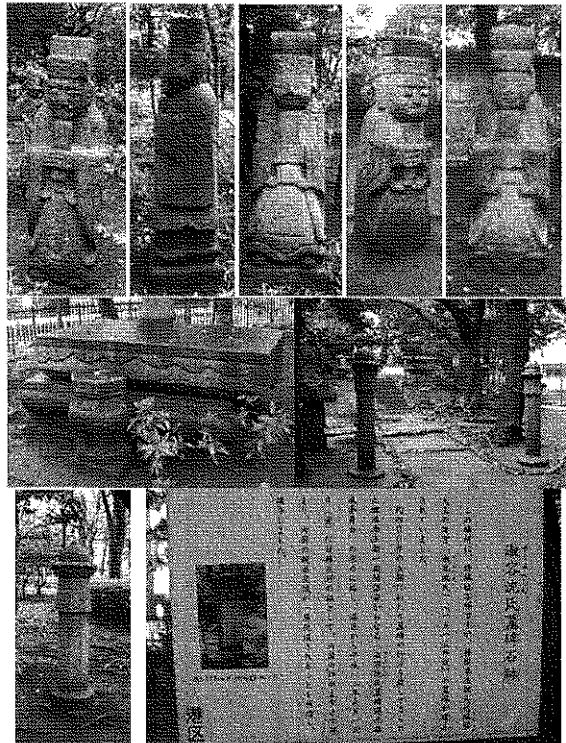
前号を見てメールを戴いた京大の水野直樹先生からは、世界人権問題研究センターの「人権ゆかりの地」講座で長楽館について話した講演記録を送っていただき、「建築主である村井吉兵衛の経済活動を考えると、石人像はかなり早い時期から有った可能性もある。」と指摘して戴いた。今後の調査研究課題としたい。

八坂神社・円山公園の散策に行かれたらコーヒーは飲まずとも、庭園に是非入って石像を見て行ってください。

★ 東京・高橋是清翁記念公園 ★

24年前(1984)の東京での話だが、雪の朝タクシー運転手さんと話をしているとなんと2・26事件(1936)の当日の体験を話してくれた。同じような大雪の日だった様であるが、その2・26事件で絶命した宰相が高橋是清である。邸宅跡が港区赤坂7丁目に高橋是清翁記念公園としてある。住所よりも、東宮御所前の青山通りを赤坂から青山に向かってカナダ大使館の手前と言った方がわかりやすい。比較的大きな緑地で、オフィス内が全面禁煙になって行き場のない愛煙ビジネスマンにとって格好の

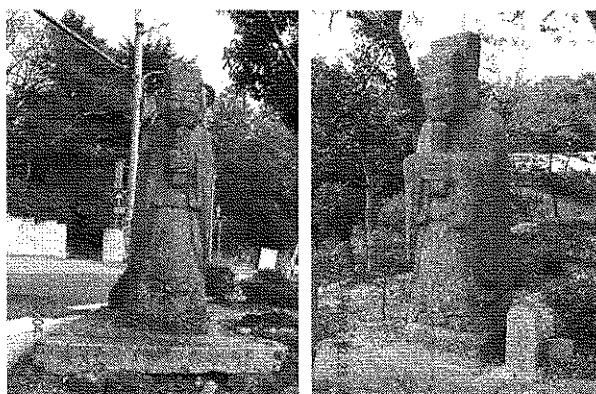
煙草オアシスとなっている。短い休憩時間に宮本武蔵宜しく両手で煙草を吸っているせわしない輩にも出くわした(08.8.26)。



ここには5体の文人像が点在している。階段1体、波1体、縦縞3体である。高さはどれも人間並みである。そのほか望柱石3本、魂遊石1基、灯籠、墓石などがある。これらの由来については不明の儘である。淑容沈氏の墓石はすでに返還されて、公園には墓碑石跡の看板が掲示してある。

★ 兵庫西宮神呪寺前 ☆

甲山神呪寺(かんのうじ)の山門前に2m程の文人像2体が古くからある。愛犬との散歩でしばしば目にしている。先日山根氏がバスの中から見かけたとの報告をもらった。明石書店発行の「兵庫の中の朝鮮」(2001)コラム④で徐根植氏が「神呪寺へは阪急夙川から五ヶ池行きのバスで甲山大師前下車。西宮甲山のふもとの神呪寺の山門前に、いつ、だ



れが置いたかわからない朝鮮石像がある。」とこの石像について書いている。

「奉納 雜古春栄 西宮市六湛寺町 昭和49年」と側の石に案内があるので、同じ市内でもあり詳しく調査した上で後日報告したい。二体とも階段状の帽子をかぶり大きな笏を持ち柔軟な顔立ちである。

★ 石人像所在追加情報 ★

以前から戴いていた情報と、前号の呼びかけに応えて寄せていただいた追加情報をとりまとめた。

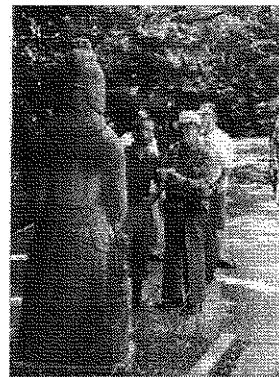
<>内は情報提供者の氏名(敬称略)。

1. 民団中央本部前に一体 <尹達世>

2. 水沢市(岩手県奥州市水沢区) <尹達世>

3. 数年前に金沢のウン

ボンギル関連遺跡を訪ねた帰りでしたか、確か山中温泉の地下壕を見に行ったことがあります。そのとき、近くにどう見ても朝鮮のものと思われる石像があったと思います。<近藤富男>写真とも



4. 芦屋市山芦屋元個人庭園 1980年ごろ、毎日新聞阪神版に掲載されました。記者に場所を聞き、コリアンカルチャークラブの生徒と出かけました。20体ほどの石人が、無造作に置かれていました。一部は、返還されたとの話も聞いた覚えがありますが、ご存じの方は教えてください。<小西和治>

5. 桃谷コリアタウン(御幸森商店街) <小西和治>

6. 舞子墓園の南東の尾根に、武藤家墓所という一画があります。鐘淵紡績の創始者の墓所です。墓所の入口に、門柱のような石造物と、何点か石人・石獣がありました。<寺岡洋>

7. 新神戸駅北に「徳光院」という寺があり、ここは川崎重工創始者ゆかりの寺ですが、ここには石人像、望柱石、狛犬、それに羅漢石仏もあります。いずれも昭和に入ってから朝鮮全羅南道から持つて来たようです。<尹達世>

★ 今後とも ☆

ある時期に日本に持ち込まれ個人所有されていた石人像が、代替わりによる相続で寄付や転売を契機に世に知られた物が多い様である。今も私人の庭に観賞用として所有されている物は世に知られずにいるが由来ははつきりしているのだろう。

知られた物は由来は不明になっていく運命にあらざるかも知れないが、調査を継続したい。(続)